

国際交流事後活動ニュース

MACRO COSM

マクロコズム 2003.1

◎カラー特集 第29回「東南アジア青年の船」事業



vol. 50

(財)青少年国際交流推進センター

第29回「東南アジア青年の船」事業

前号でご報告しましたように第29回「東南アジア青年の船」事業は、日本国内でのプログラム終了後、9月17日に横浜港大棧橋を出航し、ヴィエトナム、インドネシア、マレーシア、タイに寄港して、最終寄港地であるシンガポールでの活動を実施して、無事全プログラムが終了しました。今回は、アセアン各国での寄港地活動を特集します。



ヴィエトナム

(9月24日～28日)

参加青年代表団による
ハノイでの表敬



▲ 地元青年との文化交流会におけるカンボディア参加青年によるパフォーマンス



▲ Than Nien Newspaper 新聞社訪問

インドネシア (10月2日～4日)

マレーシア (10月9日～13日)



▲ インドネシア参加青年の
下船パフォーマンス



◀ 到着歓迎式にて (マレーシア)

▼ マレーシアにて植樹をする山本管理官



マレーシア課題別視察
▼ ハンディークラフトセンター



アセアン各国の寄港地活動より

タイ (10月16日～20日)



▲ 到着歓迎式の様子



▲ タイ参加青年からホームステイについてインタビューを受ける日本とカンボディアの参加青年 (ホームステイマッチング会場にて)



◀ シンガポール大統領 S R Nathan 氏への表敬訪問 (歓迎夕食会にて)

シンガポール

(10月23日～27日)

▼ シンガポール市内の大学にて地元青年案内による校内見学



昨年、日中国交正常化 30 周年であり、様々な交流やイベントが展開されましたが、内閣府の日本・中国青年親善交流も、日中平和友好条約締結を記念して開始された大切な象徴的事業です。本事業も 24 回を数えましたが、日本参加青年が両国の交流の要となれるよう一層活動に貢献して欲しいものです。

2002 年度中国派遣団

『日中友好三十而立 — ともに輝け未来の星 —』報告

金子 涼恵

日中国交回復 30 周年となる本年、私たち 第 24 回中国派遣団は、北京市 → 長沙市 (湖南省) → 昆明市 (雲南省) → 広州市 → 深セン市 (共に広東省) を訪れました。

- 9/14～16 (北京泊) 出発時、飛行機を 1 時間遅らせるアクシデントがあったものの、無事到着。万里の長城、故宮、北京第八中学高等部、北京市都市づくり展覧館を見学。人民大会堂を訪問し要人会見。日本大使館関係者との懇談。夜は北京外国語大学日本語学科の学生に案内してもらい、北京の街を散策。
- 17～21 (長沙市) ここではテレビ局、新聞社の取材を受ける。湖南中医学院で針治療の様子を

見学。その他、湖南省博物館、海底世界 (水族館)、長沙世界の窓 (世界の建造物をミニチュア化して集めたテーマパーク)、湖南省テレビ局を見学。ホームステイ体験 (一家族につき団員一人、二泊)。19 日は毛沢東の故郷である韶山市平気、生家や記念館を見学。

- 22～26 (昆明泊) 雲南民族村、石林を見学。花卉市場、花卉園芸会社、製薬会社を訪問。雲南民族学院では、学生から少数民族の歌や踊りを披露していただいた。昆明の大学生との合宿討論会では、テーマ別に 5 グループに分かれ、3 時間の討論を行った。その後の料理交流では、日本側はお好み焼き、ちらし寿司、すき焼きを作り、中国側は餃子を作った。夜は日中カラオ

主 要 内 容

日本・中国青年親善交流(派遣)……………5～6	静岡県青年国際交流機構より……………12～13
国際青年育成交流(ミャンマー派遣)……6～7	栃木県青年国際交流機構より……………14～15
国際青年育成交流(招へい)……………8	「つながり」から「ACTION」へ……………15～16
日本・韓国青年親善交流(招へい)……9～10	内閣府青年国際交流事業報告会……………17
北海道青年国際交流機構より……………11	ブロック大会などのお知らせ……………18～20

〈表紙の説明〉

第 8 回「世界青年の船」団員
矢口 稔さんの写真集より
(ソロモンに青年海外協力隊員
として赴任の際の記録より)

航空機による派遣事業

ケ大会となり、歌ったり踊ったり……お互いの国の歌を歌い合う場面も見られた。最後は皆で1つの輪になって大合唱のうちに終了した。翌朝スポーツ交流としてボーリング、卓球等を楽しんだ。宿泊時は中国学生の1人と団員1人で同室となり、友好を深めた。

●27～19（広州泊） 経済技術開発区にある広州港を見学。29日は佛山市へ行き、寺院、マンションにおける社区（コミュニティー）作り、歴史ある陶芸工場を見学。

●30～10/1（深セン泊） 美術館、税関、植物園を見学。

●10/2 早朝、香港に入境し、出国

派遣中にテレビ局で聞いた話によると、中国では、ニュースの場合には3回検閲を受けているとすることで、未だに言論の自由が制限されていることが分かりました。しかし現在、日本人は中国に

いても何ら制限なく生活することができますし、特に不便を感じることもないように思います。

また、中国の人々は若い世代を中心に、思想面においてバランス感覚を持ち合わせている人が多かったです。ここから“社会主義”と名は付いていますが、民主主義が多分に入ってきているように感じました。

今回の派遣では、今まで以上に中国社会を見ることができました。しかしそれでも、与えられた環境・条件・時間制約の中での交流であって、私が見た良い面も悪い面も中国全土に普遍的なものではないだろうとも思っています。今後も中国に注目しつづけ、様々な方向から中国を見ていきたいです。そのためにも、中国に対する一般的な評価については批判的な目をもつことを忘れず、また、多くの日本人・中国人の意見に耳を傾け、常に自分の頭と心で本質を理解していきたいと思っています。

ミャンマー派遣 2002 報告レポート

竹内 身和

今回初めて訪れたミャンマーに、私はなぜか強い親近感をおぼえた。一つの理由は、ロンジーを着たら日本人かミャンマー人かはっきり区別がつかないくらい、顔つきが似ていることにあるのかもしれない。しかし、もちろんそれだけではない。ミャンマーの人々には、ホスピタリティ、相手への気遣いや優しさ、シャイでいながら人懐っこい性格などが共通していて、そういった人々との出会いが私とミャンマーをグッと近づけたのである。スケジュールはなかなかタイトで、ゆっくりと話

をする時間は十分だったとはいえない。しかし、今回の派遣で得た出会いが私のミャンマーに対するステレオタイプを崩したことは間違いない。その出会いの一端をここでは紹介したいと思う。

ホームステイ

昨年はミャンマー政府の閣議に取り上げられたというくらい、ミャンマーでは馴染み無く、難しかったホームステイ。今年は昨年の派遣団からの意見も反映されてか、ミャンマーの第二都市マン

ダレーと少数民族シャン族のシャン州で、それぞれ二泊ずつ、ホストファミリーと過ごすことができた。受け入れ先の家族は、ミャンマーの上流階級であったとはいえ、ミャンマーの一般家庭の生活を垣間見ることができたのは、とても貴重な経験であった。中でも印象的だったのが、托鉢。まだ朝日の出きらない早朝、おばあちゃんに誘われて家の門まで出てみると、終わりが見えないくらいの少年僧の行列ができています。私たち（各家庭には団員を二人ずつ受け入れてもらった）は、その一人一人の鉢に、お母さんとお姉さんが早起きしてこしらえた朝ごはんを入れさせてもらった。これは毎朝の日課で、土日にはファミリーのおじいさんの寄付によって建てられたという僧院とパゴタ（寺院）にお参りにいくそうで、ここにも私たちは同行させていただいた。このようなホストファミリーの生活から、惜しみない強い信仰心と生活と宗教との密接なつながりをみたように思う。また、ホストファミリー先では本当に暖かいもてなしを受けた。「ワービー（お腹いっぱい）」というまで、次から次へと出してくれたおいしい家庭料理やミャンマーのお菓子、フルーツ。お姉さんが塗ってくれた、ミャンマーの伝統的な化粧、タナッカー。覚えの悪い私が何度も付き合ってもらって習得した、ミャンマーダンス。別れ際にこうした思い出を写したアルバムをお父さんからいただいたのだが、それを見るたびに「また帰っておいで」と言ってくれた「家族」の言葉を思い出す。

USDA メンバーとの交流

ミャンマー側の受け入れ団体となってくれたのが、USDA（連邦団結開発協会）という組織であっ



た。NGOとメンバーは話していたが、実際は政府とのつながりが強く、ミャンマーの大衆の組織化を目指す組織とも評されている。ミャンマーのいたる所に支部があって、訪れた地域ごとにメンバーと触れ合う機会があった。日本への招聘青年も全員、この組織のメンバーであったので、今回ミャンマーで得た友人の殆どがUSDAつながりである。彼らのホスピタリティには、たびたび感激させられたし、自分自身の態度を振り返させられることともなった。怪我ひとつすれば3日間はそれを気に留めていてくれるし、食事のときには自分の分よりまず人の分をよそってくれる。少し疲れた顔をしようものなら、すぐに「OK?」と心配してくれる…。また、彼ら自身の考え方に学ばされることも多くあった。私が今回の派遣で得た大切なもののひとつが「人脈」である。それを途切れさせてしまうことは、つくる難しさに比べたら本当にたやすい。連絡を取り合うことが少し難しい国ではあるけれど、これからもこの人脈をぜひつなげていきたい。

都道府県では、内閣府青年国際交流事業の受入れが実施され、各都道府県青年国際交流機構も積極的に関わっています。今回は、京都府青年国際交流機構のメンバーからの報告です。

「国際青年育成交流」事業の受入れと「国際青年の村」への参加

国際青年育成交流の招へい事業には、京都 IYEO 国際交流部長の苗村玲さん（2000 年フィンランド団）と同副部長の永尾彰子さん（2001 年スウェーデン団）が実行委員として参加しました。また、永尾さんは引き続き、この事業の一環である「国際青年の村 2002」にも参加。素敵な経験をされてきたようです。永尾さんからの報告を紹介します。

平成 14 年度内閣府国際青年育成交流事業の受入れ実行委員として IYEO から苗村さんと共に参加しました。今年度、京都府はキューバ、モロッコ、ルーマニアの 3 か国を招へいし、IYEO はウェルカムパーティーを担当しました。

それに加え、私は同行ボランティアやホームステイのお手伝い、この募集の一環である「国際青年の村」にも参加しました。

上記 3 か国の外国青年とは約 2 週間共に過ごしましたが、サルサや歌などラテン系のノリで毎日

寝る間も惜しんで楽しみました。特にルーマニア青年とは本当に仲良くなり、共産主義時代のことや現在の経済事情、日本の印象などいろんな話をしました。中でも「なぜ日本人は本当の気持ちをそのまま表現しないのか？」という問いかけが一番印象的です。私はその問いかけに彼らの強い“自由”への想いと将来への“エネルギー”を感じました。何もかも満たされている日本人の私たちには大切なメッセージなのではないでしょうか？彼らにはルーマニアの未来を担っているという責任感、真剣さがあり、そして何よりも人生に対しての前向きさが彼らの言葉や表情に出ていました。自国に誇りを持つその姿がきっと国を変えていくと思います。今回の出会いでルーマニアは私にとって近い国になりました。彼らとの友情をより深めて実際にルーマニアを感じるために、年末にルーマニア旅行を計画中です。

事前打合せや準備等、皆様に助けていただきながら参加して、世界に友達の輪が広がったことに感謝しています。ありがとうございました。

（永尾 彰子）



日本・韓国青年親善交流事業 北海道受入れプログラム無事終了！

11月12日から15日まで、日本・韓国親善青年交流事業（韓国青年招聘）の地方プログラムとして、40名が来道致しました。その企画・運営を北海道庁知事室国際課と連携しつつ行い、無事15日には次の地方プログラム（大阪市でのホームステイ）に送り出すことができました。

企画・準備の巻

企画・準備に本格的に取り掛かったのは、9月になってからのことでした。（少々遅れ気味。）韓国青年たちの4日間のプランを立てることから始まり、それらが実際に可能かどうかを検討することを幾度か重ねたのち、今回の北海道プログラムでは地元青年との交流プログラムをメインとすることになりました。IYEOメンバーの私たちのなかで、直接的交流の重要性というのは皆が実感することであり、それを実現させることがIYEOの事後活動の一環としても意味のあることです。そこで、「地元青年とのグループ別札幌市内視察」を企画しその運営を担うのが北海道IYEOの役割となりました。

「グループ別視察」とは…

「グループ別視察」とは、韓国青年5名と地元青年5、6名を1グループとして、行き先の違う8つのコースに分かれ各所を見学してくるという企画でした。準備段階で、何時のバスに乗って何時に到着して…、という細かいスケジュールを立て、各グループのリーダーに下見を行ってもらい、当日の行動がスムーズにすすむよう配慮してもらいました。参加者（地元青年）には事前に研修も行いました。各コースは以下の8つです。

- | | |
|----------|-------------------------|
| A 環境 | 発寒清掃工場、発寒リサイクル
工房見学 |
| B 産業 | 雪印工場、サッポロビール工場見学 |
| C 歴史Ⅰ | 小樽見学 |
| D 歴史Ⅱ | 開拓記念館、開拓の村見学 |
| E 文化・都市Ⅰ | 大倉山ジャンプ競技場見学 |
| F 文化・都市Ⅱ | 札幌市中心部（時計台、テレビ
塔等）見学 |
| G 福祉Ⅰ | 小樽高等ろう学校見学 |
| H 福祉Ⅱ | この実察（障害者福祉施設）見学 |



全日程を終えて…の巻

はじめの2日間は札幌泊、最後の日は登別温泉泊ということで、北海道を「満喫」とは行かなかったかもしれませんが、幸い(?)雪もちらつき、気温も下がり、北海道「らしさ」を多少は体験してもらえたともいえます。

とにかく、無事に問題なく終わられて良かったというのが率直な今の(11/16)感想です。今回直接的交流の機会としてグループ別視察という企画を立ち上げましたが、私は実際彼らが道中をどのように交流して回っていたのか見ることができませんでした。でも、その後楽しそうに共に夕食をとったり、ホテルの部屋で夜中まで飲み、語っている姿を見ると、きっとグループ別でも楽しく過ごしていたのではないかと信じています。

私たちが受入れに関して取り組んできたこの数か月間、いろいろなことに悩みながらも大きな期待を抱いて北海道へやってくる韓国青年たちのことをあれこれ想像しながら、北海道を好きになって帰ってほしいという思いは日ごとに強くなっていった私でした。

私自身は、昨年の韓国派遣団の一員でしたが、その派遣日程に対しては多少の不満もありました。教科書問題や小泉総理の靖国神社参拝の問題により、予定されていた日程上で各地方から日本青年の受入れをキャンセルしたいという展開になっていたようで、オフィシャルなかたちでの人びととの交流の場があまりありませんでした。しかし、そんななかでも、私たちは楽しく実りある日々を過ごしてこることができたのは、受入れをする韓国の側に、私たちのことを尊重し考えて、動いてくれる人々がいたからです。そのことにはっきりと気づくことができたのは今回受入れの仕事を担わせてもらったからであり、さまざまな障壁にぶつかったからでもあると思っています。昨年の参加者という立場は、新鮮な情報をもっているという利点はあったかもしれませんが、経験は浅い私たちでした。板倉会長ほかさまざまな方にサポートしていただいたことと同時に、今回の企画の前面にわたり、自由にやらせていただいたこと、本当に感謝しています。

最後に、空港での見送りの際「北海道が大好きになりました」という韓国青年の声を聞くことができました。受入れの仕事は本当に大変ですが、これを言われると病みつきになりそうです…(笑)。

担当：生垣 琴絵
(2001 韓国派遣)



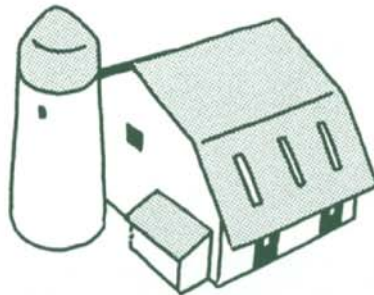
2002 年地区例会 十勝にて

第17回「青年の船」 高嶋 正臣

今年の地区例会の話の発端は、昨年、帯広で「21世紀ルネッサンス青年リーダー招へい」事業を受入れ、吉野さん（十勝IYEO会員）が外国人青年に、トウキビを振る舞われたことでした。今年はそのトウキビを求めて、池田町の吉野農園で地区大会をすることが決定されたのでした。また、十勝支部も、今年は道東区会員の交流会を十勝で

開催しようと考えていたところでもありました。悪天候の為、残念ながら目的のトウキビは当日には間に合いませんでしたし、その上、札幌の皆さんを迎えたのは、生憎の雨でした。それでも予定していた野外でのBBQパーティーは、吉野さんの大型倉庫の中で、賑やかに行うことができました。

そこには私と同期の青年の船参加者で、浦幌に在住の鈴木さんの懐かしい顔もありました。たくさんの野菜のお土産をもらい、吉野農園を後にして車で20分程の所にある温泉「緑風壮」で皆で一風呂。その後のパーティーで出されたワインが美味しかったと急遽、そのワインを求めて、雨の中池田町へ移動。吉野さんの電話により、ワインの店は閉店時間を過ぎても、私たちの到着を待っていてくれました。店主は私たちを地下室に案内して下さり、ワインの町・池田町



の歴史や、ワインに関する蘊蓄（欧州から密かに持ち帰ったカビのこと等々）を、一時間近くの間、話してくださいました。その道のプロの話を通じて聞ける、めったにない機会でしたので、ありがたく拝聴いたしました。目当てのワインをたくさん買い込み、店を出たのは真夜中を過ぎていました。それでも若者たちの1日は終わりません。帯広の我が高嶋邸での2次会の始まりです。飲んで語り、皆が床に着いたのは朝の4時過ぎでした。

翌日は前日とはうって変わって晴れ渡り、まさに十勝晴れ！みんなでデメテル展の見学へと出かけました。会場を歩き回ったので、皆さんきっと疲れて札幌への帰途についたことでしょう。あつという間の十勝での例会でしたが、楽しんでいただけただけでしょうか？今回来れなかった方も、又来年も来たいと思っている方も、是非おいでください。十勝は歓迎いたします。また、高嶋邸でもお待ちしております。

ところで、当日味わうことのできなかつたトウキビは、後日吉野さんと、佐野さんに収穫され、札幌へ送られました。準備に関わった皆さん、参加された皆さん、本当にありがとうございました。

国際交流フットサル大会

平成13年度「日本・韓国青年親善交流」一般団員

内藤 康介（静岡県）

サッカー王国と言われるほどサッカーが盛んな静岡県で、11月24日（日）に国際交流フットサル大会を開催しました。『もうひとつの世界カップー言葉の壁を超えた国際交流ー』をテーマに静岡県に在住する日本人・外国人青年が集まり、当日集まった青年を四つのチームに分けてリーグ戦方式の試合を行いました。初対面で緊張気味だった青年たちもたった一つのボールによって自然と心が通い合い表情が柔らかくなりました。また、各チーム内では日本語・英語・スペイン語が飛び交い国際色豊かな大会となりました。

さて、試合は、半年前のワールドカップをほう

ふつとさせる華麗なプレーやゴールが決まるたびに大きな歓声があがり、中にはエキサイトし過ぎて雄叫びをあげる選手もいました。また、珍プレーには会場からどっと笑いが起こり、終始盛り上がった大会となりました。また、試合終了後には、相手選手や自分たちのチームメイトと握手を交わす姿がたくさん見られました。

時には無心になって、一つのボールを追いかけることも良いな、と感じた1日でした。

私自身、昨年韓国に派遣された時にも、同じようにサッカーの交流試合を提案し、実施しました。その時に強く感じたのは、たとえ住んでいる場所



が違って、持っている文化が違って、抱えている悩みが違っていても人間は心が1つになれるのだ、ということです。その気持ちを地域に還元したくて、今回の国際交流フットサル大会を企画しました。今後も心の通い合える交流の場作りに微力ながら力を尽くしていきたいと思っています。



日時：11月24日(日) 13:00～17:00

(12:30 受付開始)

主催：静岡県青年国際交流機構

(しずおかIYEO)

参加費：1,200円

募集：日本人20名／外国人20名 計40名

1チーム10名 計4チーム

(日本人・外国人混合チーム)

会場：焼津いちまるフットサルグラウンド

日程：12:30 受付開始

13:00 開会式／練習

13:30 試合開始

16:30 試合終了

16:45 閉会式

17:00 解散

フットサルとは？……サッカーと比較して人数が半分、コートが4分の1なので、仲間を集めて簡単に出来るスポーツである。気軽に出来る上に、ルールがより楽しめるように工夫してある。まず、「交代自由」なこと。つまり何回でも「出入り自由」という寛容なルールになっている。そしてスライディングやショルダーチャージといった「接触プレー」が全面禁止になっていることが特徴。

第2回「東京工業大学留学生」

ふるさと体験プログラム

IYEO 栃木会長 手塚美保子

地元留学生との交流の例

2002年のJICAの外国青年招へい事業栃木県プログラムがきっかけで、昨年、東京工業大学の短期国費留学生に、日本の田舎の生活を体験させてくれないかという話が持ち込まれた。日本滞在が1年未満の留学生にとって、東京以外での生活を知るチャンスが少ないから是非受入れて欲しい、という趣旨だった。急な話だったが、宇都宮国際交流会と、氏家町の「交流グループふれあい」との共催ということで受入れたのが好評だった。で、今年もまた受入れることになったのである。

留学生の内訳は、韓国女性1名、中国男女各1名、インドネシア男女各1名、タイ男女各1名、ヴェトナム男性1名、イラン男性1名、アメリカ男女各1名、ノルウェー男性2名、スウェーデン男性2名女性1名、ドイツ男性1名、フランス男性1名の計18名で、全員機械工学を専攻している学生だ。

昼食を兼ねた歓迎会は、宇都宮森林公園でのバーベキューパーティー。お天気にも恵まれ、満開の牡丹桜と輝くばかりに美しい新緑の中で行われた。その後、ホストファミリーに引き渡され、それぞれの家庭でのホームステイに入った。

大谷観音を見学した家族、イチゴ狩りをした家族、温泉、カラオケ、お国自慢の料理など、一泊のホームステイを充分楽しんだようだ。

翌日の午後3時、とちぎ青少年センターにて集

合した時にはすっかり打ち解けていて、どの学生も新しい故郷と家族との時間に満足の様子だった。

彼らは意思疎通のできるには十分な日本語力があり、しかも1泊という短いホームステイなので、初心者（やってみたくても不安があってできなかった）には、最適なプログラムであった。今回も4組の賛助会員が引き受けてくれた。

今後ともこのような活動は積極的にやって行きたいので、希望のある会員はどんどん連絡していただきたい。また、それぞれの地区で会員以外の方と一緒に、このようなプログラムを受けてみたいと考えている場合も、連絡をいただければ計画しますので、是非申し出てください。



はじめてのホストファミリー

平井 忠男（賛助会員）

良い機会をいただき、ホームステイのお手伝いができ、とてもうれしく思っています。

タイの国の人に会うのも、お話するのも初めてでしたが、同じアジア人だから違和感なく接することができました。

1泊2日でしたが、子供とも同世代ということで仲良く過ごしておりました。タイの国について何も知らないのですが、うちの犬（ゴールドリトリバー）のような犬は暑くて生きていられないとギフト君が言っていましたので、かなりの暑さ

なのでしょう。

彼はタイ風の料理を、持ってきた調味料を使って作ってくれたのですが、スパイシーでおいしい味に仕上がっておりました。彼は今度アメリカにも行ってみたいと言っていました。多くの経験を積んで希望であるパイロットになり、大空に羽

ばたいて行ってほしいと思います。

私たちがギフト君のことをいつでも応援しています。そしていつでも待っています。この機会を与えられたことを心から感謝しております。ありがとうございました。

「つながり」から「ACTION」へ ～「近畿リーダーズフォーラム」の開催に向けて～

第11回「世界青年の船」 寺西 一章

第11回「世界青年の船」（以下「世界船」）に参加して約4年が経つ。下船後の集まりに参加したり、IYEOの活動をしていると、「世界船」の同期のみならず、違う回の人や他事業の人と会う機会も多く、その度にその人の個性や能力の高さに驚かされ、さらにその知り合いにスゴイ人や面白い人とめぐり会えたりと、どんどん人的ネットワークが広がっていくのを感じる。「世界船」の他の回との「縦」のつながり、同じ年に他の事業に参加した人との「横」のつながり、年度も事業も違う人との「斜め？」のつながりがひろがる。

ここでふと思う。これだけのすごいつながり・ネットワークを活用することができたら、もっとすごいことができるんじゃないか、と。そして「IYEO」という場は、まさにそのつながりを活用できる場なのではないか、と。

IYEOの活動目的は①国際親善の寄与②広く社会貢献を目指す③会員相互の交流と明記されている。実際に京都IYEOでも、新規の事業参加者にガイダンスや壮行会を行ったり、ブロック大会や

様々な交流イベントを通じて③の目的はそれなりに果たしていると思う。だが①②に関しては、内閣府や京都府からの要請があって活動することはあっても、なかなか京都IYEO独自で事業を起こせていないのが実情である。

だが「会員内交流」のみでとどまってしまっただけでは単なる同窓会にしかならない。このつながりを活かした何か社会的役割を伴ったイベントや事業を起こしたい、と思い、周囲に問い掛けてみた。

今年9月、第11回「世界船」の3.5周年リユニオンと銘打って、長野県のある町に30名程の同期が集まった。2泊3日の集まりだったが、その2日目の夜、「この「世界船」で得たつながりを活かして、何か“ACTION”を起こしてみない？」と問い掛ける時間を設けてもらった。久々の再会に盛り上がる夜に水を差すのではと内心ヒヤヒヤしていたが、みんなが真剣に熱く意見を交わし、予想をはるかに越えた熱い熱いディスカッションとなった。その時僕は確信した。「こいつらとならできる」と。

今度は同じ問いかけを、実際に集まりやすい近畿ブロックのメンバーに問い掛けてみたいと考えている。それが表題の「近畿ブロック・リーダーズ・フォーラム（仮題）」である。目的は①このつながり・ネットワークのすごさを（再）認識する②そのつながりを活かしてどんな社会的意義のある“ACTION”ができるかを提案し、実施していくための取り組みを考えるというものである。そして僕らがその担い手となって、地域や国際社会に少しでも貢献できる事業が起これたら…と先を見据えている。

このフォーラムの詳細は、近畿ブロックの皆さんには、同封の bulletin board に掲載してお知らせします。また、近畿ブロック以外の方でも、この件についてご意見等ありましたら次のメールアドレスまで頂けたら幸いです。

(k-teranishi@pat.hi-ho.ne.jp)

少しでも多くの方に集まってもらいたいののでぜひ参加をお願いします。

北海道青年国際交流機構

TALK & TRY

1997年韓国派遣 若林 真奈

北海道青年国際交流機構では、様々な国の方を招いて自国のことを語っていただく企画を行っています。今回のゲスト講師は、インド人のマハビルさんでした。以前、留学生と語ろうのイベントの時にも講師をしていただいたことがあるのでIYEOとはゆかりの深い方です。参加者は残念ながらIYEO会員が少なく、一般の方々と合計5人でのTALK & TRYで9月28日「かでの2・7」にて開催されました。

今回のお話はインドについて。現在、インドには約人口が10億人いるそうです。私が中学生のとき、インドは7億人と習っていたので、10年で約3億人も増えたのです。また、インドは主に80%の人がヒンズー教なのですが、その他にも民族などによりバラモン教、シーク教、ジャイナ教などの宗教に分かれています。マハビルさんはジャイナ教だとおっしゃっていました。マハビルさんは大学で仏教について勉強していらっしやるので日本の宗教から、インドの宗教まで様々なことを教えていただきました。言語も非常にたくさんあり、インドの方々はたくさん言葉を話せるそうです。

今回の一般の参加者の方にはインドへ旅行したことのある人も参加していたので、そのときのお話や女性問題など様々なことを話していただきました。そして、マハビルさんは今回民族衣装をきて、お話をしてくださりましたので、その民族衣装についてなどのお話もありとても充実した時間でした。また、マハビルさんはインドカレーの講師もしているとのこと。材料費とは別に一人1,000円受講料でおいしいカレーを食べられますよ。希望する方は是非お知らせください。マハビルさんをご紹介します。

平成14年度 内閣府国際青年交流事業 事業報告会

事業名	開催日	開催場所/時間
国際青年育成交流 日中・日韓青年親善交流	2003年2月2日(日)	(独) 国立オリンピック記念 青少年総合センター 13:00～16:30(予定)
第29回「東南アジア青年の船」事業	2003年2月9日(日)	
第15回「世界青年の船」事業	2003年3月2日(日)	

※参加費はすべて無料です。

〈申し込み先〉 参加をご希望される方は、お名前、参加希望事業名、参加事業/紹介者、連絡先をご記入の上、下記まで郵送、電話、FAX、E-mailにてお申込みください。

〒130-0013 東京都中央区日本橋人形町2-35-14 東京海苔会館6階
 財団法人青少年国際交流推進センター 「〇月〇日事業報告会係」
 TEL: 03-3249-0767 FAX: 03-3639-2436 E-mail: hq@iyeo.or.jp

平成15年度実施予定の日本青年派遣が行われる内閣府青年国際交流事業一覧

事業名	事業の内容
国際青年育成交流	皇太子殿下の御成婚を記念して、平成6年度に開始。 日本青年の海外派遣及び外国青年の日本招へいの2つの事業から構成。 ボランティア活動、福祉活動、伝統文化等の共同体験交流を中心とした拠点滞在型の国際交流活動を実施。日本青年約60名を派遣、外国青年約100名を招へい。
日本・中国 青年親善交流	日中平和友好条約の締結を記念し、日本を中国両国政府の共同事業として昭和54年度に開始。日本青年約30名を19日間派遣、中国青年約30名を19日間招へい。
日本・韓国 青年親善交流	昭和59年の日本・韓国共同声明及び昭和60年の日韓国交正常化20周年を踏まえ、日本と韓国両国政府の共同事業として昭和62年度に開始。日本青年約30名を15日間派遣、韓国青年約30名を15日間招へい。
世界青年の船	日本青年約120名と訪問国を含む世界各国12か国の青年約150名が45日間船内で共同生活をしながら、世界的視点に立って共通の課題の研究・討論、各種の講義、スポーツなどの交流活動を行うとともに、訪問国では現地青年との交流活動を実施。
東南アジア青年の船	アセアン各国を日本との間の共同声明に基づいて、昭和49年度に開始。 アセアン10か国の青年約300名と日本青年約40名が50日間船内で共同生活をしながら、アセアン各国及び日本を訪問。

(財)青少年国際交流推進センター事務局日誌より (11月～3月)

<これまでの活動報告 (11月～12月) >

11/6-21	第16回「日本・韓国青年親善交流」事業 (招へい) 11/7 オリエンテーション、都内視察、歓迎会 11/8 課題別視察 (新宿区立落合第一小学校、淀橋第四小学校訪問) 11/9-18 地方旅行 (宮城県、北海道、大阪市) 11/19 日中韓3か国交流会 11/20 都内視察
11/12-12/1	第24回「日本・中国青年親善交流」事業 (招へい) 11/12 歓迎会 11/13 オリエンテーション、国会議員との懇談、裏千家東京道場訪問 11/14 課題別視察 (国会見学、新宿区立江戸川小学校) 11/15-29 地方旅行 (千葉県、岐阜県、徳島県、熊本県) 11/19 日中韓3か国交流会 11/30 都内視察
11/22-23	第36回全国推進会議 (於：神奈川県民ホール)
11/23-24	第18回全国大会神奈川大会 (於：メルパルク YOKOHAMA 他) 基調講演、パネルディスカッション、歓迎交流会等が行われました。
12/3-16	「世界青年の船」既参加青年東京連絡会議 「世界青年の船」事後活動組織活性化のための会議が9カ国の外国青年代表者を招いて「につぼん丸」船上および東京で行われました。
12/13	第15回「世界青年の船」参加青年帰国および事後研修

<今後の予定 (1月～3月) >

1/18-19	東海ブロック大会 (岐阜県) *詳細は19ページ参照
1/23-2/5	青年社会活動コアリーダー育成プログラム (招へい) 地方旅行：長崎県 (青少年コース) 大分県 (高齢者コース) 和歌山県 (障害者コース)
1/25-26	近畿ブロック大会 (滋賀県) *詳細は19ページ参照
2/1-2	九州ブロック大会 (長崎県) *詳細は20ページ参照
2/2	平成14年度航空機による海外派遣事業報告会 *詳細は17ページ参照 於：(独)国立オリンピック記念青少年総合センター
2/9	第29回「東南アジア青年の船」事業報告会 *詳細は17ページ参照 於：(独)国立オリンピック記念青少年総合センター
2/22-23	第36回全国推進会議 於：(独)国立オリンピック記念青少年総合センター
3/2	第15回「世界青年の船」事業報告会 *詳細は17ページ参照 於：(独)国立オリンピック記念青少年総合センター

平成14年度青少年国際交流を考える集い（ブロック大会）

今年度ブロック大会も残すところ3ブロックとなりました。参加希望の方は各大会問合せ先または都道府県 IYEO 会長にお誘い合わせの上、奮ってご参加下さい。

東海ブロック大会

- ・日 時：1月18日（土）～19日（日）
- ・会 場：リビエール長良（岐阜市御手洗 390-16）
- ・プログラム：講演「ボランティア団体の組織運営」（栗田暢之氏）
歓迎交流会、事後活動報告 他
- ・参加費：宿泊（全日程参加）11,000円（懇親会・1泊2日朝食付）
（小学生以下 5,000円）
日帰り参加（懇親会費込）6,000円（当日徴収いたします）
- ・申込方法：①郵送 岐阜県羽島郡笠松町長池 315 小川弘孝
②FAX 058-387-0745（住所、氏名、電話、E-Mail、参加事業記載のこと）
- ・問合せ先：実行委員長 小川 弘孝（058-387-0745 ogawaf@quartz.ocn.ne.jp）

近畿ブロック大会

- ・日 時：1月25日（土）～26日（日）
- ・会 場：明日都浜大津（滋賀県大津市浜大津 4丁目1-1）
- ・プログラム：基調講演「みず・ひと・つなぐ…国際交流」（岩田一成氏）
平成14年度内閣府青年国際交流事業報告会、懇親会、琵琶湖博物館見学
- ・参加費：①全日程参加（宿泊）：11,000円 ②（宿泊なし）：8,000円
③1日目のみ：5,500円 ④2日目のみ：3,500円
⑤懇親会のみ：5,000円
- ・申込み先：下記振込先に参加費をお振込みください（通信欄・ご依頼人欄に参加事業および年度、E-Mail、氏名（フリガナ）、住所、電話番号をご記入ください）
- ・振込み先：郵便振替口座 00930-1-184204 滋賀県青年国際交流機構
- ・問合せ先：三浦初美（事務局）（0748-77-8108 gs35chie@silver.ocn.ne.jp）

平成14年度青少年国際交流を考える集い（ブロック大会）（続き）

九州ブロック大会

- ・日 時：2月1日（土）～2日（日）
- ・会 場：メルカつきまち（長崎市築町3-18）
長崎グランドホテル（宿泊）（長崎市万才町5番3号）
- ・プログラム：講演「長崎と中国の国際交流について」長崎市立博物館館長 原田博二氏
懇親会、事業報告会、各県活動報告 他
*青年社会活動コアリーダー育成プログラム（招へい）外国青年も参加予定
- ・参加費：全日程参加：13,000円（懇親会・1泊2日朝食付）
懇親会：5,000円（小学生以下 2,000円 幼児無料）
- ・問合せ先：実行委員長 広佐古 俊之
電 話：095-829-1111（長崎市総合企画室内）
E-Mail: hirosako_toshiyuki@city.nagasaki.nagasaki.jp
- ・申込方法：上記問合せ先に住所、氏名、電話番号、参加事業および年度を連絡の上、
郵送される振込用紙にて参加費をお振込みください。

編集後記

「あっという間に2002年が過ぎ、新しい年を迎えている」という印象で、時の過ぎる早さに驚くばかり。内閣府青年国際交流事業で集約された人

材のネットワークをどのように社会に生かしているかは、私たち参加者に問われるところです。新たな気持ちで、取り組みたいと思います。

*本誌の年間講読をご希望の方は、(財)青少年国際交流推進センターまで葉書又はFAXにてお申し込み下さい。年間講読料は1,500円です。

MACROCOSM（マクロコズム） 1月号 Vol.50 2003年1月1日発行（隔月発行）

編集：マクロコズム編集委員会

発行：財団法人 青少年国際交流推進センター

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2-35-14

TEL 03-3249-0767

FAX 03-3639-2436

e-mail hq@iyeo.or.jp

URL <http://www.centerye.org>

<http://www.iyeo.or.jp> (IYEO)

編集協力：内閣府政策統括官

（総合企画調整担当）

日本青年国際交流機構

定 価：198円（本体189円）

印刷所：株式会社 絢文社

TEL 03-3959-3960

On Bord Ship Conference (OBSC)

マレーシアにて乗船し、シンガポールまでの約3週間第29回「東南アジア青年の船」に既参加青年の代表7名が乗船しました。船内においてはSSEAYPニュースの編集とSSEAYPミーティング（参加青年への事後活動組織紹介）を行いました。また、事後活動組織としての活動のための議論が交わされました。



◀ OBSCメンバータイ寄港地活動にてタイ副首相への表敬

山本管理官より修了書を受け取る
▼ シンガポールOBSC代表



ドルフィンホールにて参加青年にむけての
▼ 事後活動紹介 (SSEAYP ミーティング)



▼ SSEAYP ニュースの編集作業風景



◀ S-1事務局次長の
タン・スー・ホー氏を囲んで



1973年2月14日。一隻の大型客船が横浜を出航しました。

歴史的な日本初の世界一周クルーズへの出発です。それが、初代「にっぽん丸」。

現在の「にっぽん丸」はそれから数えて3代目です。この間、私たちは、

日本のクルーズの先駆者として、新しいクルーズや様々なサービスを開発してきました。

例えば、日本船初めての展望浴場などは、ほんの一例。また、私たちの長い経験の集大成である独自の船内プログラムが、他の日本客船全てのお手本になっていたりもします。

ところで豪華客船でのクルーズと言うと、リタイア後の老夫婦がのんびりと旅をされている

イメージをお持ちではないでしょうか。でも、「にっぽん丸」に乗船してこられるお客様は、

驚く程アクティブな方が多いのです。いや、アクティブになられると言った方が正しいのかもしれませんが。

これまでの人生になかった新しい体験を、船の上で得た新しい仲間達と一緒に貪欲に吸収されるのです。

自ら進んで何か新しいものを得ようとする気持ちを冒険と言うとすれば、


冒険には年齢や性別なんて関係ない、私たちは、そんな皆さんの想いを満足させることを

一番大切に考えています。そして私たち自身も、お客様に負けないくらいに、

いつも新しい事に挑戦して行こうと思っています。

これまでも、ずっとそうして来たように。

春の瀬戸内巡航クルーズ・Aコース	2003年3月3日(月)～3月5日(水) 3日間	神戸発着	74,000円～284,000円
プラチナエンターテイメントクルーズ・Aコース	2003年3月10日(月)～3月13日(木) 4日間	神戸発着	158,000円～518,000円
島島周遊アホウドリ・ウォッチングクルーズ	2003年3月14日(金)～3月16日(日) 3日間	横浜発着	68,000円～284,000円
小笠原スプリングクルーズ	2003年3月16日(日)～3月21日(金) 6日間	東京発着	158,000円～640,000円
陽春の三河湾クルーズ	2003年3月21日(金)～3月23日(日) 3日間	東京発着	74,000円～284,000円



冒険する生活を選びました。

冒険する生活
にっぽん丸

※他に松山発着、神戸発博多着などのコースもございます。

※横浜発着のBコースもございます。

左記代金は、大人お一人様の代金(グループ3・ステートルームB/1室3名※プラチナエンターテイメントクルーズは、ステートルームC/1室2名～スイートルーム/1室2名ご利用の場合)です。その他のクルーズも用意しております。お問い合わせは、お近くの旅行会社または商船三井客船クルーズデスクまで。詳しいパンフレットがございます。



にっぽん丸は、米国公衆衛生局(USPH)による船舶衛生検査において、3年連続で日本船最高得点を獲得しました。

クルーズデスク フリーダイヤル

0120-791-211



商船三井客船

<http://www.mopas.co.jp>

美しい時代へ — 東急グループ



旅も楽しめる合宿にしたい。



急に1週間の全国出張になった。

ひとりひとりに、満点旅行。

ONE
to
ONE



家族水入らずで楽しめるプランを。



北から南まで温泉三昧したい。

商品力、サービス力、情報力、3つのパワーで、
あなたの旅をさらに快適に。

どんな旅でも、東急観光はすべてのお客様に満足
していただきたいと願っています。そのために、オリ
ジナル旅行や団体旅行など、多彩な商品をご用意。
IT活用による最新情報入手から24時間予約まで、
リアルタイムな体制でお応えします。そして旅を熟知
した私たちのひとりひとりが、お客様の旅を親身
になって考えます。

 **東急観光**

国土交通大臣登録旅行業第38号
日本旅行業協会正会員・ボンド保証会員
〒153-8550 東京都目黒区東山3丁目8番1号
<http://www.tokyukanko.com>
<http://tour.tokyu.com>